

26年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 12月20日 ~ 26年1月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight.D.I.

品目		26/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	14.3	7.1	35.7
	ヒノキ	16.7	8.3	40.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	50.0	50.0	0.0
消費動向	スギ	14.3	14.3	28.6
	ヒノキ	16.7	25.0	25.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	21.4	14.3	0.0
	ヒノキ	25.0	25.0	8.3
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	50.0	0.0	0.0

スギ及びヒノキの原木入荷は増加傾向で推移、カラマツ及びトドマツは1,2月の増加が3月には横ばいに。

スギ及びヒノキの消費は共に増加傾向で推移、カラマツ及びトドマツは横ばい推移。

スギ及びトドマツの在庫は、1月の減少が3月に向け横ばいに、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは1,2月の増加が3月には横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight.D.I.

品目	26/1月	2月	3月
スギ	0.0	7.1	0.0
ヒノキ	0.0	16.7	33.3
カラマツ	0.0	0.0	100.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギ原木価格は1月の横ばいから2月のやや下落を経て3月には横ばいに、ヒノキは1月の横ばいが2,3月には弱含みに、カラマツは1,2月の横ばいが3月には強含み、トドマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・入荷は、思ったほど増加していない、素材生産力の不足、運送のトラック不足。消費は旺盛な買い意欲。・スギ、ヒノキは積雪の影響で入荷増を期待できず。丸太凍結のため消費が進まないことが予想される。手持ち丸太少なく生産調整している。在庫は極少。
・カラマツ、トドマツ原木は12月後半になり、ようやく集荷が進んできたが、在庫積み増しには至っていない。国産材ニーズは高まるが、原料集荷難から、応えることが叶わない。カラマツは旺盛な需要から使用量も多く昨年比30%の在庫しかない。トドマツは現状ではバランス取れているが今後不透明。
・入荷は、現在でもスギ、ヒノキ丸太少ない、価格高い。
・スギ、ヒノキ丸太は相場高止まりも、出材依然増えず。1月は正月休みもあり出材減少予想。仕入れ増えないので消費も増やせない。原木在庫も低水準から回復していない。
・スギ、ヒノキとも出材順調、材の引き取りも良い。雪の心配残り在庫はある程度増やしたい。天候次第だが初市はどこも多量出材されている。
・スギ丸太は、先月同様順調に入荷、県内他工場では入札による購入のため思うような材、価格、数量が確保できない様子。県外出荷もあるが県内物件注文が入っており消費増。雪のため例年消費は落ちるが残業、早出で対応。在庫は入荷順調のためいつもの月と同様。
・スギ、ヒノキ丸太の入荷は前年同期よりかなり増も旺盛な需要のため供給不足続き、先行きは雪次第。11月の注文こなすためしっかり生産したが乾燥能力に限られ難しい。そのため、仕入れは増やしているがそれほど消費できない。今月から乾燥機増設・稼働しはじめ増産したいが丸太次第。
・ヒノキ丸太は月を追う毎にやや順調に入荷するようになってきた。消費も順調、入荷した分は出荷。

(原木価格)

- ・スギはジリ高、ヒノキは頭打ち。・スギ丸太異常高続くか?。・スギは上昇、ヒノキは下落傾向。
- ・カラマツ原木価格は集荷時期から外れる3月以降に再び再燃する機運がある。
- ・価格、高値安定。
- ・スギ、ヒノキとも相場高止まり。3月頃は多少調整もあると思うが、大崩は考えにくい。
- ・スギは天井見えたか一服感あり、ヒノキは修正安が一部で見られ始めた。
- ・スギ丸太は当社では変動はないが、県内森組系入札ではスギ中目材18,000円/m³と全体的に3~4割アップの様子。
- ・スギ、ヒノキ丸太ともに次第に落ち着いてくる見込み。
- ・ヒノキ原木価格もこれくらいが限界か?

26年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
生産動向	スギ	0.0	7.1	21.4
	ヒノキ	8.3	16.7	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	7.1	7.1	0.0
	ヒノキ	25.0	25.0	8.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	41.7	33.3	8.3
	ヒノキ	30.0	10.0	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	50.0	50.0	50.0

スギ製材品の生産は1月の横ばいが2,3月には増加に、ヒノキは増加傾向で推移、カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

スギ製材品の出荷は1,2月のやや増が3月には横ばいに、ヒノキは1,2月の増加が3月には減少に、カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

スギ及びヒノキ製材品の在庫は、1,2月の減少が3月にはやや増加ないし横ばいに、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	35.7	21.4	0.0
	柱角 KD12×3	28.6	21.4	7.1
	通し柱 12×6	16.7	8.3	0.0
	桁角	33.3	8.3	0.0
	母屋角	33.3	8.3	0.0
	タルキ	25.0	8.3	0.0
	間柱	28.6	14.3	7.1
	ヌキ	25.0	8.3	0.0
	平割	25.0	8.3	0.0
	ラミナ	12.5	12.5	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	16.7	8.3
柱角 KD12×3		16.7	8.3	16.7
土台角 10.5×4		16.7	8.3	16.7
土台角 12×4		16.7	0.0	16.7
通し柱 12×6		25.0	12.5	12.5
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	-	-	-	
" 梱包仕組み板	100.0	0.0	100.0	
" ラミナ	100.0	100.0	100.0	
トドマツサンギ	-	-	-	

スギ製材品は総じて1月の強含みないし強保合が3月に向けて横ばいないし保合に。

ヒノキ製材品は柱角KD、土台角が1月のやや強保合が3月にはやや弱含みないし弱保合に、通し柱は強保合で推移、ラミナは横ばいで推移。

カラマツ梱包仕組み板は1月の強含みが2月の横ばいを経て3月には強含み、カラマツラミナは強含み推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動)・生産は人手不足で頭打ち、駆け込み需要でしょう。出荷は順調。・スギ製材品の生産は凍結によりダウン、生産が追いつかない。・スギ、ヒノキ製材品の生産は原木在庫及び天候次第。出荷は生産次第。在庫は微減。

- ・前月同様フル生産体制だが適材に乏しく生産性は悪い。カラマツの不足分をトドマツで補う販売状況。
- ・出荷は、引き合いまだ強く、特にスギが強くなる。在庫はほぼゼロ。
- ・スギ、ヒノキの原木少なく増産どころか日々の生産量確保が精一杯。製品出荷は依然好調に推移、構造材から内装材等にシフトの傾向。製品在庫も極めて低水準。
- ・スギKDの注文増で乾燥機フル稼働、天乾+人乾等で納期に間に合わせている。県内出荷も例年に比べ増、特にKD柱、間柱が増加。在庫増やして急な注文にも対応しているが現在はそれができていない状況。
- ・11月の注文こなすためしっかり生産したが乾燥能力に限られ難しい。生産した物は野地板に至るまで順調に売れている。在庫は増える暇がない。
- ・ヒノキ製材品の生産は4月頃まで今と同様か。出荷順調も2~3カ月先が見えず。在庫も増えることはない。

(製材品出荷価格動向)・全商品の売れ行き好調。・スギ製材品は物不足で上昇傾向、ヒノキ製材品は供給面で顧客離れが進行している。

・カラマツ梱包材は3月にもう一段の値上げがあると思われる。ラミナは大断面向けが価格を引っ張っている。

・スギ材、引き合い強い、丸太不足。ヒノキは高値安定でも丸太の方が高い。

・スギ製材品値上げは最終段階、2月は横ばいだが3月頃から調整入りと予想。ヒノキも基本的に同じだが、ヒノキ材の価格上昇は既に通りきったように感ずる。

・スギ製材品は1月現在は価格変動ないが2月から県内・外とも3,000~4,000円/m3アップを御願ひしている。

・スギ製材品は1月になってやや落ち着き始めており、先行きもヒノキよりも安定、ヒノキ製材品も1月になり落ち着きはじめ価格横ばいも下落の可能性も濃厚と予想。

26年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
仕入動向	米マツ丸太	25.0	0.0	25.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-
消費動向	米マツ丸太	25.0	0.0	25.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-
在庫動向	米マツ丸太	25.0	25.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-

米マツ丸太の仕入れは1月の増加が2月のばいを
経て3月には増加に、NZラジアータは1月の横ば
いが2,3月には増加に。

米マツ丸太の消費は1月の増加が2月の横ばいを
経て3月には増加に、NZラジアータは増加傾向
で推移。

米マツ丸太の在庫は、1,2月の増加が3月には横
ばいに、NZラジアータは1月の横ばいが2,3月は
減少に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/1月	2月	3月
米マツ丸太	75.0	75.0	50.0
NZラジアータ丸太	50.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	-	-	-
北洋アカマツ丸太	-	-	-
北洋アカマツ原板	-	-	-

米マツ及びNZラジアータ丸太価格は、為替の円
安、現地価格上昇等により強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・NZラジアータ丸太は、スギ原木、NZ原木価格上昇により注文が増え、入荷及び消費ともやや増加、在庫はやや減少傾向。

(原木価格動向)

・NZラジアータ丸太の1月着FOBは3US\$アップ、2月着同は5US\$アップで計8US\$アップ、フレートも上昇中で為替105.50円/US\$となり史上最高値更新中。

26年1月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight.D.I.

品目	26/1月	2月	3月
生産			
米マツ製材品	25.0	0.0	25.0
NZラジアータ製材品	100.0	100.0	100.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	-	-	-
北洋アカマツ製材品	-	-	-
出荷			
米マツ製材品	50.0	0.0	25.0
NZラジアータ製材品	100.0	100.0	100.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	-	-	-
北洋アカマツ製材品	-	-	-
在庫			
米マツ製材品	25.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	50.0	50.0	100.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	-	-	-
北洋アカマツ製材品	-	-	-

米マツ製材品の生産は1月の減少が3月に向け増加に、NZラジアータは増加傾向で推移。

米マツ製材品の出荷は1月の減少が3月に向け増加に、NZラジアータは増加傾向で推移。

米マツ製材品の在庫は1月の減少が2,3月は横ばいに、NZラジアータは減少傾向で推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight.D.I.

品目	26/1月	2月	3月
米マツ平角	75.0	75.0	50.0
米マツ正角	75.0	75.0	50.0
米マツ小割	75.0	75.0	50.0
北洋エゾマツタルキ	-	-	-
北洋アカマツタルキ	-	-	-
NZ梱包材(割板)	50.0	50.0	100.0
NZ梱包材(割角)	50.0	50.0	100.0
NZ土木用材	50.0	50.0	100.0
その他	-	-	-

米マツ製材品の価格は総じて強含みで推移、NZ製材品についても総じて強含みで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・0社の姫路工場閉鎖による注文増で生産、出荷とも増加、在庫は減少。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZ材製材品は2月から更に4,000～5,000円/m3の値上げが必要。